# 令和３年度 イベント日程

野草園プレオープン　令和3年 3月27日(土)・28日(日)
開　園　日　令和3年 4月1日(木)

※都合により日程や内容の一部が変更になる場合があります。
※新型コロナウイルス感染症の状況により、やむを得ず中止にする場合もございます。詳しくはホームページにてご確認ください。

シンボルマーク
原画　阿部功雲氏

## 展 示

| | |
|---|---|
| 野草園写真展（紅の蔵） | 4月頃 |
| 第27回 野草園の魅力を探る写真コンテスト入賞作品展 | 5月～6月頃 |
| 絶滅危惧植物パネル展 | 8月頃 |
| 東北南3県ボタニカルアート作品展 | 9月頃 |
| 第28回 野草園の魅力を探る写真コンテスト入賞作品展 | 10月～11月頃 |
| 野草園写真展（山形市役所） | 令和3年3月中旬 |

## 観察会

| | |
|---|---|
| ガイドウォーキング | ①開園期間(4月～11月)の日曜日と祝日<br>②無休期間(4月第3月曜日～6月第2月曜日)の土曜日、9月の土曜日 |
| バードウォッチング | 4月頃、11月頃 |
| 四季観察会 | 5月頃、7月頃、10月頃、<br>令和4年2月頃、令和4年3月頃 |
| ホタル観察会 | 6月下旬～7月中旬の金・土・日曜日<br>(6日間) |
| アサギマダラ観察会 | 9月頃 |

## イベント

| | |
|---|---|
| サクラ祭り | ゴールデンウィーク中 |
| お山マルシェ | 7月頃 |
| お山フェス | 9月頃 |
| アサギマダラ祭り | 9月頃 |
| キッズスノーパーク | 令和4年2月頃 |
| 冬のお山の雪遊び | 令和4年2月頃 |

## 博物館実習

| | |
|---|---|
| 博物館実習 | 募集期間：4月～6月頃<br>実施期間：8月頃(6日間) |

## コンテスト

| | |
|---|---|
| 第28回 野草園の魅力を探る写真コンテスト | 募集期間：9月頃 |

## 体験教室

| | |
|---|---|
| カブトムシの育て方教室 | 4月頃 |
| 山野草の育て方教室 | 6月頃、10月頃 |
| 中級者写真撮影教室 | 7月頃 |
| 薬草講座 | 7月頃 |
| 木工工作教室 | 7月頃、8月頃 |
| 庭木の剪定教室 | 7月頃、10月頃 |
| 昆虫標本教室 | 7月頃 |
| 虫博士と遊ぼう | 7月頃 |
| テラリウム教室 | 8月頃 |
| 樹皮編み教室 | 9月頃 |
| ボタニカルアート体験講座 | 9月頃 |
| ギャザリング教室 | 10月頃 |
| ガーデニング教室 | 11月頃 |

## 共催事業

| | |
|---|---|
| スノーハイク体験ツアー | 令和4年2月中旬 |
| ノルディック ウォーキング | 10月頃 |

## その他

| | |
|---|---|
| 開園記念 花苗プレゼント | 4月1日(開園日) |
| 工作コーナー | 実施期間：7月～8月頃 |
| 山の日記念 花苗プレゼント | 8月8日(山の日) |
| 家屋新築記念樹交付（市事業） | 5月頃、10月頃 |
| 団体の案内・受入れ | 適時 |

### [ 開園時間等 ]

- 開園時間／９：００～１６：３０
- 休園日／毎週月曜日〈ただし、月曜日が祝日・休日の場合はその翌平日〉
  （４月第３月曜日から６月第２月曜日まで無休）
- 冬期休園／12月～３月
- 入園料／大人：300円　高校生以下：無料
  ○団体割引(20人以上の場合)／大人：240円

### [ 交通案内 ]

- ＪＲ山形駅より山交バス路線バス西蔵王・野草園行き(約30分)終点下車すぐ
- 山形自動車道蔵王I.Cより西蔵王高原ラインを蔵王温泉方面へ(約15分)
- 国道13号より、県道53号経由または市道三本木線経由(約10分)

野草園だより
編集・発行／山形市野草園
58号／令和３年３月発行（年1回発行）
〒990-2406 山形市大字神尾832番地の３
TEL 023(634)4120・FAX 023(634)4121


野草園のホームページ
https://www.yasouen.jp/
５月～植物検索システム公開予定

# 山形市 野草園だより 58

YASOUEN-DAYORI


2021.Mar.
令和3年3月発行

「みなみの空へ」 撮影／近野範夫さん

## INDEX


それぞれの月の人気植物 2021
野草園内の薬草を知ろう《草本編2021》
第27回 野草園の魅力を探る写真コンテスト入賞作品
令和3年度 イベント日程


### アサギマダラ（タテハチョウ科）

写真の蝶の翅には、「蔵王」のマーキングが確認できます。
令和２年には、園内過去最多の飛来数300頭を記録しました。
渡りをする蝶として有名なアサギマダラは、半年ほどで世代交代します。
①５月頃に日本列島を北上した成虫が蔵王で産卵
②９月頃に成虫が園内「七草の庭」に咲くフジバカマの蜜を吸いに飛来
③そのまま日本列島を南下した先で産卵
蔵王でマーキングされた蝶は令和２年に初めて2，275キロ離れた台湾で再捕獲され、これまでの最長記録（沖縄県与那国島2，240キロ）を更新しました。
９月に南の空へ旅立つアサギマダラのマーキングを探すのも楽しみのひとつです。

※野草園ではマーキングは行わず、確認のみ行っています。

# それぞれの月の人気植物 2021

## 卯月（ウヅキ）《4月》

### フクジュソウ

**3月下旬～4月上旬**

早春の花の代表のひとつです。太陽の光を反射して、黄色の花がきらきら光ります。まるでパラボラアンテナのようです。

### ショウジョウバカマ

**4月中旬～下旬**

早春、ロゼット状に開いた葉から花茎を立ち上げて、いち早く花を咲かせます。春の訪れを感じさせてくれる植物です。

## 皐月（サツキ）《5月》

### クマガイソウ

**5月中旬～下旬**

杉林などの中に群生する不思議な形の花です。花が皆同じ方向を向いたクマガイソウの群落を見ると、植物の不思議さを感じます。

### ヤマシャクヤク

**5月中旬**

開花期間が短く、およそ3日間ほどです。また、園内での個体数も少ないので、綺麗な花に出会うことはなかなか難しいようです。出会えた方は幸運です。

## 水無月（ミナヅキ）《6月》

### ニッコウキスゲ

**5月下旬～6月下旬**

ニッコウキスゲの名前を聞くと夏山をイメージする方が多いことでしょう。夏の高原に吹く風を感じさせる、爽やかな花です。

### オゼコウホネ

**5月下旬～9月上旬**

尾瀬と山形県月山、北海道の猿払原野にのみ隔離分布する、極めて珍しい種です。氷河期の遺存種と言われています。赤い柱頭盤が綺麗です。

## 文月（フミツキ）《7月》

### ヤナギラン

**6月下旬～7月中旬**

ラン科の植物ではありませんが、花の美しさから〝ラン〟の名前が付けられました。近くからひとつひとつの花を見るのもよし、離れて群落を見るのも味わいがあります。

### トモエソウ

**7月上旬～8月上旬**

花弁がねじれて、〝巴（ともえ）〟のようになるのが特徴です。右にねじれるか、左にねじれるか、園内で探してみるのも楽しみのひとつです。

## 葉月（ハヅキ）《8月》

### オミナエシ

**7月下旬～9月上旬**

〝秋の七草〟のひとつで、地下茎でつながり群落をつくります。「七草の庭」で、蝶の乱舞とともに長い期間楽しむことができます。

### ヒオウギ

**7月下旬～8月下旬**

暑い夏の時季、橙色が鮮やかです。一日花ですが、蕾が次々と咲いていくのでずっと咲き続けているような印象があります。種子は〝ぬばたま〟と呼ばれ、漆黒の美しさです。

## 長月（ナガツキ）《9月》

### サラシナショウマ

**9月上旬～下旬**

白い小花が集まり、穂状の花が見事です。近づくと、花の姿にふさわしい気品のある香りがします。蝶がたくさん集まり、カメラマンに人気があります。

### アケボノソウ

**8月下旬～9月中旬**

漢字で書くと〝曙草〟、花冠の斑点の模様を夜明けの星空に見立てたことが名前の由来です。名付けた方の感性に驚くとともに、清楚な美しさに感動します。

## 神無月（カンナヅキ）《10月》

### リンドウ

**9月～10月中旬**

秋の花の代表のひとつです。〝枕草子〟にも登場し、清少納言は、「華やかな色合いで咲き、実に趣がある」と記しています。昔から、日本人に親しまれてきた花です。

### ミヤマダイモンジソウ

**10月上旬～下旬**

5枚の花弁のうち2枚が長く、漢字の〝大〟の字に見えることが名前の由来です。花弁の白、雄しべの紅色、雌しべの黄色がとても美しい色合いです。

## 霜月（シモツキ）《11月》

### メグスリノキの紅葉

**10月下旬～11月上旬**

葉を見るとカエデの仲間とは思えないのですが、カエデの仲間です。サーモンピンクの紅葉はとても美しく、モミジにも決して引けを取りません。

### マルバノキ

**10月下旬～11月下旬**

長野県から四国にかけて局所的に分布する珍しい樹木です。氷河期の遺存種と言われています。背中合わせに咲く、五芒星のような花が魅力です。

# 野草園内の薬草を知ろう《草本編 2021》

草本とは…
木にならない(木質化しない)植物
(↔木本)

園内には「薬草コーナー」があり、薬草として利用される草本や木本がたくさん植えられています。

薬草コーナー以外にある植物も、薬草として利用されているものが沢山あります。

※実際に薬草を使用する場合は専門家にご相談ください。

## オトギリソウ (オトギリソウ科)

葉を透かして見ると、黒点の油点が散在しています。

利用部位　全草
生薬名　小連翹(しょうれんぎょう)
薬効　神経痛、痛風
リウマチ、外傷

## ウイキョウ (セリ科)

フェンネルと呼ばれ、スパイス、ハーブとしても利用されています。

利用部位　果実
生薬名　茴香(ういきょう)
薬効　芳香健胃
胃痛・腹痛

## ナルコユリ (ユリ科)

和名は花をつけた姿が楽器の鳴子に似ていることからつきました。

利用部位　根茎
生薬名　黄精(おうせい)
薬効　滋養強壮

## アマドコロ (ユリ科)

和名は、根茎に甘味があり、形がヤマイモ科のトコロに良く似ていることからつけられました。

利用部位　根茎
生薬名　萎蕤(いずい)
薬効　滋養強壮、美肌

## セリバオウレン (キンポウゲ科)

和名は葉の形がセリに似ることに由来します。

利用部位　根茎
生薬名　黄連
薬効　健胃、整腸、結膜炎

## サボンソウ (ナデシコ科)

ヨーロッパでは昔、石鹸の代わりに使用されていました。

利用部位　根茎
生薬名　サポナリア根(こん)
薬効　鎮咳去痰、石鹸代用

## オキナグサ (キンポウゲ科)

和名は、白く長い綿毛のある果実が多く集まり老人の頭のように見えることからつけられました。

利用部位　根茎
生薬名　白頭翁(はくとうおう)
薬効　有毒植物、下痢、閉経

## ヒキオコシ (シソ科)

弘法大師の故事より、病人を「ひき起こす」という意味で、ヒキオコシと呼ばれたといいます。

利用部位　全草
生薬名　延命草(えんめいそう)
薬効　健胃、消化不良、食欲不振

参考資料：薬草ガイドブック野外編(日本植物園協会)、原色版日本薬用植物事典



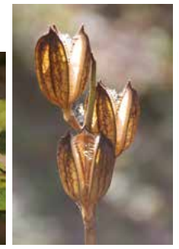
# 第27回 野草園の魅力を探る 写真コンテスト入賞作品

第27回写真コンテストにご応募いただき、ありがとうございました。
第28回作品は9月に募集いたします。ふるってご応募ください。

最優秀
『みなみの空へ』近野範夫さん

優秀　『水芭蕉群生』齋藤俊幸さん

優秀　『優美』大道寺市三郎さん



優秀　『晩秋の実り』沼沢麗子さん

## 山形市野草園　第27回写真コンテストの審査を終えて

「野草園の魅力を探る」をテーマにした今年の写真コンテストは応募者数、作品数とも昨年を大きく上まわり、70人の方より224点の素晴らしい作品が寄せられました。心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

応募作品のモチーフの傾向は花や昆虫等が多いのは例年通りですが、スナップ写真が極端に少ないと感じました。折からのコロナ禍のために家族そろっての外出などを自粛せざるを得なかったことの影響があったのかもしれません。

さて、最優秀となりました近野範夫さんの「みなみの空へ」は、この夏蔵王で成虫になったアサギマダラが野草園の「七草の庭」のフジバカマからたっぷり吸蜜して2,000キロにもおよぶ旅に出発する希望とエネルギーにあふれた雄姿を爽やかに表現した作品です。蝶の飛型、フジバカマ、そしてこれから向かっていく大空を完璧な構図とシャッターチャンスで捉えきりました。今回はアサギマダラの応募作品が90点を超え、その多さに驚きましたが、撮影意図をしっかり持って選んだ場所で費やした時間と熱意が、他の誰よりも勝っていたのではないでしょうか。

優秀賞の齋藤俊幸さんの「水芭蕉群生」は、野草園の代表的な早春の風景です。今までに咲きそろったミズバショウの旬な作品が少ないことを不思議に思っていましたが、撮影時間帯の制約や天候などから周到な撮影計画が必要なモチーフなのかもしれません。爽やかな春の息吹を熟練の撮影技術でものにしました。

優秀賞の大道寺市三郎さんの「優美」は、クジャクチョウがキバナコスモスに止まっている様子を美しく捉えた作品です。デジタルカメラの精細な描写は驚くばかりですが、蝶のピントの位置や脇役の花とグリーンの背景の処理の仕方は心憎いほど巧みです。

優秀賞の沼沢麗子さんの「晩秋の実り」は、秋が深い中で各々その役割を終えようとしているクサギ、オオウバユリ、クサボタンを静かに捉えた組写真です。四季を通して野草園の草花を見守ってきた愛情が感じられる物語性のある作品になりました。

入選作品はもちろんですが、惜しくも選外にせざるを得なかった作品にも良い作品が揃っていました。カメラの驚異的な進化が私達の撮影経験を追い越し、ベテランと初心者の技術の差はすぐ埋められる時代になりました。コンテスト入賞のコツは、応募作品のセレクトがカギです。技術的に優れていても同じモチーフや類型的な表現では競争率は高くなります。

例を挙げれば、花のアップは多く、群生している花々の作品は少ないです。昆虫や小動物の作品は稀ですが、蝶は圧倒的に多いです。また、撮影スタイルはアップ（気味）に偏っています。この広々とした野草園をもっと大きな視点で捉えた作品創りもされたらいかがでしょうか。

今後とも四季の野草園での人々と自然のふれあいを皆さんの感性で捉えた楽しい作品をたくさん寄せていただきますようご期待申し上げます。

令和２年10月
審査員代表　軽部 治悠紀